

第79回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：市民参加プログラムシミュレーションと樹林環境の順応的管理—

11月の研修会では雨のために樹林環境の管理作業が中止となり、1週間後に迫る谷戸山公園まつりで実施する市民参加プログラムのシミュレーションを1日かけて行いました。



田んぼでは刈り取りを終えた稲の株から、新しい芽が出ていました。
この稲のひこばえは、稲孫（ひつじ）と呼ばれ、古くから秋の季語として親しまれています。

稲刈りを早い時期に行う地域では稲穂まで実るため、
人が入らなくなった田んぼで鳥たちがゆっくり実りにありつけるようです。



里山体験館の中に集まり、早速谷戸山公園まつりの準備です。

まずはチームに分かれて細かい打合せを行います。



その後、全員で机を囲んで全体の打合せです。
今年の出展内容は、どんぐりのプログラム、土壌生物のプログラム、
そして紙芝居とペレットストーブを使った森のプログラムです。
チームごとに内容を説明し、意見や質問を出し合いました。



お昼には、森のプログラムで使う、きりん君Ⅱというペレットストーブを実際に動かして、
どのように使用するか見せてもらいました。
ペレットストーブとはバイオマス燃料である木質燃料（木質ペレット）を使った
ストーブのことです。
木材が搬出される過程で、間伐材や端材やおがくずなどは必ず出ますが、
再利用が難しく今まで多くのものが廃棄されてきました。
それらを活用したペレットストーブは環境に優しく、かつ木材の再利用と林業の活性化が
期待されます。



火を付けると煙突から煙が出てきました。最初は煙が出ますが、安定するとすぐに治まります。
バケツ一杯の木質ペレットで、1時間ほど燃焼が持続されるそうです。



予想以上の火力で、試作したピザはとてもおいしく出来上がりました。
今回はバケツ1杯半ほどのペレットを使用しましたが、
燃焼後の灰は少量になるため、処理も難しくありません。



午後はどنگりと土壤生物のプログラムのシミュレーションを行いました。
チーム以外の人をお客さんとして、実際の流れにそってプログラムを進めます。
意見をもらうことで、本番に向けての課題が見えていきます。



里山体験館に戻り、講師からまつり当日についての説明の後、研修会は終了です。

12月の研修会では皆伐更新区域の管理作業を行う予定です。研修会の内容は単一ではなく、年間を通して色々な側面から現場での経験や知識を体得できます。皆様のご参加をお待ちしています。